

Nocturnal Intermittent Hypoxia and the Risk of Cardiovascular Disease among Japanese Populations: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS)

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2023-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大貫, 慧介 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002914

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2599 号

Nocturnal Intermittent Hypoxia and the Risk of Cardiovascular Disease among Japanese Populations: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS)

日本人集団における夜間観血的低酸素と循環器疾患のリスクについて

大貫 慧介 (おおぬき けいすけ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

アジアの地域住民の閉塞性睡眠時無呼吸が循環器疾患発症に及ぼす影響についての研究は少ない。そこで、本研究では、閉塞性睡眠時無呼吸の代替指標である夜間間欠的低酸素と循環器疾患発症リスクとの関連について、日本の地域住民を対象としたコホート調査を実施した。2000年から2008年にベースライン調査を行い、データに欠損がなく、虚血性心疾患および脳卒中の既往がない5,313人(40歳から74歳)を対象に、夜間間欠的低酸素の重症度の指標として、1時間あたり3%以上の酸素飽和度低下数(3%酸素飽和度指数[ODI])を評価し、2群に分けた(3%ODI \geq 5または3%ODI $<$ 5)。Cox比例ハザード回帰モデルを用いて、年齢、性別、BMI、飲酒歴、喫煙歴を調整した循環器疾患発症の多変量調整ハザード比と95%信頼区間を算出した。66,796人年、中央値12.8年の追跡期間中に185例の循環器疾患(脳卒中115例、心疾患[急性心筋梗塞、労作性狭心症、突然死]70例)の発症があった。3%ODI \geq 5と3%ODI $<$ 5の循環器疾患発症の多変量調整ハザード比(95%信頼区間)は1.49(1.09-2.03)、ラクナ梗塞は2.13(1.08-4.22)、心疾患は1.93(1.16-3.19)であった。夜間間欠的低酸素は、地域在住の日本人において循環器疾患、特にラクナ梗塞と心疾患の発症リスクを増加させることが明らかとなった。一方、脳卒中全体、あるいは脳卒中のうち脳実質内出血、くも膜下出血、全脳梗塞の発症リスクとは有意な関連が認められなかった。